

木材・プラスチック再生複合材部会
2020年度事業報告総括

I. 2020年度活動方針

1. WPRCの市場拡大のための普及広報活動を行う。

1)情報発信

WPRC及び会員企業に関わる情報発信に加え、木材利用側面や廃プラスチック側面などWPRCによって解決される課題からのアプローチなどの情報発信を積極的に行う。そのためのHP内容の充実、メールマガジン配信を継続する。

2)用途拡大提案

WPRCの市場は長らくデッキをはじめとしたエクステリア用途にほぼ限られてきた。この材料を国内外に広めるため、また業界を拡大するためにも用途拡大・販路拡大は必須事項である。他団体とも連携して調査・研究・発信を行う。

3)各種イベント出展など政府広報活動への協力の継続

4)地域材の活用や間伐材の有効活用等など木材利用に関わる提案活動などの継続

2. 市場拡大のための公的認定、各種認証制度への対応を進める。

1)グリーン購入法により、関係省庁(環境省、国土交通省)でのWPRCに対する理解が深まる中、グリーン調達による受注に向けた働きかけを積極的に行う。

2)グリーンビルディング認証等に関する調査研究を継続する。

3. 素材・試験方法・製品 JIS の改正等維持管理及び国際標準化事業へ積極的支援活動を行う。

1)「令和2～4年度グリーン建材・設備製品に関する国際標準化」事業における「WPRC試験規格の国際提案」の支援活動を行う。

4. 部会の一層の活性化を図る。

II. 2020年度活動成果

1. 継続的活動成果

- ①「グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業」支援、政府広報活動への協力などを通じ、経済産業省様との関係も更に強いものとなりました。また、国際標準化事業活動を通じ、関係各国代表との信頼関係が築け、国際的な視野に立って議論が可能になりました。
- ②環境指標WGの積極的な支援により得られる継続的な調査研究成果に加え、WPRCに関わる制度などに対応し、更に普及促進できるようメールマガジンなどの情報発信を継続しています。
- ③新聞・出版等のマスコミ及び関連他業界団体から当該産業界の窓口機関として認知され、各種問い合わせに継続的に対応してきました。

2. 2020年度成果

- ①11月と3月の2度にわたりメールマガジンを配信し、「海洋プラスチック問題」や「サーキュラーエコノミー」といった最近の世の中の動きを紹介し、WPRCの有効性について情報配信を行いました。
- ②2020年度から新たにはじまった「グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業」(受託事業)においてWPRC国際標準化分科会に参加して、支援を行った。2020年9月に開催されたISO/TC61国際会議(WEB)SC11/WG11において、ISO20819-2(リサイクル材を考慮した試

験方法の開発) について CD 投票に進むべく日本としての考え方について説明し、了承されました。1月からCD投票が行われ、3月に承認されました。

- ③WPRC 部会の活動をより活性化させるためにまた部会として安定継続させるために事務局輪番に2社加わっていただき体制強化を図りました。それに伴い事務局の在り方も変更し、部会活動に特化する部会事務局と建産協との連携を主に担う建産協事務局の2つの事務局体制としました。
- ④WPRC 部会の企業会員にとって上流や下流に位置する企業が多数参画している CLOMA (クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス) に9月入会しました。WPRC の紹介だけに留まらず、具体的なビジネスの場の創出にも今後力を入れていきます。
- ⑤毎年8月に当部会として出展していた「経済産業省子どもデー」については新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、11月開催の Japan Home & Building Show の建産協ブースに WPRC 部会としてパネル展示を行い、部会活動について説明しました。